



2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月5日
東証マザーズ

上場会社名 ユナイテッド株式会社 上場取引所
コード番号 2497 URL <https://united.jp/>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)早川 与規
問合せ先責任者 (役職名)執行役員 経営管理本部長 (氏名)山下 優司 (TEL) 03(6821)0000
四半期報告書提出予定日 2020年8月5日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	7,994	31.4	5,300	212.9	5,303	218.9	3,706	385.0
2020年3月期第1四半期	6,083	△61.2	1,694	△86.3	1,662	△86.5	764	△90.8

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 4,724百万円 (—%) 2020年3月期第1四半期 △4,663百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	165.85	—
2020年3月期第1四半期	33.44	33.44

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	40,110	31,211	77.3
2020年3月期	33,592	26,532	78.3

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 30,993百万円 2020年3月期 26,313百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	11.00	—	2.00	13.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

当期の連結業績予想につきましては、合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。なお、当該理由等は、【添付資料】(P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予想に関する説明」)に記載しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	23,671,845株	2020年3月期	23,671,845株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	1,323,045株	2020年3月期	1,323,045株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	22,348,800株	2020年3月期1Q	22,854,282株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は、2020年8月5日に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明動画を配信する予定です。動画中で使用する資料等については、当社ホームページに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界各地に広がる新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響により、これまでの緩やかな回復基調から急激な減速に転じました。

こうした環境のもと、企業はビジネスモデルや組織の変革に迫られ、社会におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)(*1)の必要性が高まっております。一方で、DXを実現する人材は社会全体で不足しており、国内のIT人材に対する需要が供給を上回るペースで増加していき、今後IT人材不足はさらに加速していくと考えられます。

当社グループにおきましては、個人向け事業と法人向け事業の二軸により社会のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進すべく、「DXプラットフォーム事業」を新たに今後の成長を見込む最注力事業と位置づけております。また、「インベストメント事業」を「DXプラットフォーム事業」と並ぶ成長期待事業、スマートフォン関連領域に特化した「アドテクノロジー(*2)事業」及び「コンテンツ事業」を収益期待事業と位置づけ、各事業の成長及び収益性の改善に取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、投資先株式の売却を行ったこと等により、売上高は7,994,923千円(前年同四半期比31.4%増)となり、営業利益は5,300,905千円(前年同四半期比212.9%増)、経常利益は5,303,135千円(前年同四半期比218.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,706,651千円(前年同四半期比385.0%増)となりました。

(*1) デジタルトランスフォーメーション(DX)：企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

(2018年12月経済産業省公表「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン(DX推進ガイドライン)Ver. 1.0」より)

(*2) アドテクノロジー：インターネット広告における広告配信等の技術やシステムを指す。

当第1四半期連結累計期間における各セグメントの概況は、以下のとおりであります。

なお、当第1四半期連結累計期間より、事業ポートフォリオの整理および注力領域の絞り込みに伴い、報告セグメントを従来の「アドテクノロジー事業」、「ゲーム事業」、「コンテンツ事業」、「インベストメント事業」から、「DXプラットフォーム事業」、「インベストメント事業」、「アドテクノロジー事業」、「コンテンツ事業」の4区分に変更しております。以下の前年同四半期比較については、変更後の区分方法により作成しております。

① DXプラットフォーム事業

DXプラットフォーム事業は、オンラインプログラミング教育事業を運営するキラメックス(株)、アプリ・システム開発事業を運営する(株)ブリュアス、及びユナイテッド(株)のDXコンサルティング事業により構成されております。

当第1四半期連結累計期間は、キラメックス(株)を中心に事業成長を継続し、売上高は525,217千円(前年同四半期比49.6%増)と増収となりました。一方、(株)ブリュアスの事業拡大に向けた開発リソース追加等の先行投資を実施した結果、セグメント損失は17,124千円(前年同四半期はセグメント利益38,853千円)と減益となりました。

② インベストメント事業

インベストメント事業は、シード/アーリーステージを中心としたベンチャー企業への投資を行っております。

当第1四半期連結累計期間は、投資先の営業投資有価証券を売却したこと等の影響により、売上高は5,456,279千円(前年同四半期比106.9%増)、セグメント利益は5,384,807千円(前年同四半期比116.1%増)と増収増益となりました。

③ アドテクノロジー事業

アドテクノロジー事業は、アプリ広告領域において、アプリ特化広告配信プラットフォーム『ADeals』、動画広告配信プラットフォーム『VidSpot』を提供し、ウェブ広告領域において、SSP『adstir』、DSP『Bypass』、ア

ドネットワーク『HaiNa』を提供しております。

当第1四半期連結累計期間は、収益性重視の運営に移行したことにより、売上高は1,444,754千円(前年同期比15.2%減)と減収となりましたが、セグメント利益は206,533千円(前年同期比49.0%増)と増益となりました。

④ コンテンツ事業

コンテンツ事業は、スマートフォン向けアプリやウェブサイトを通した様々なサービスを提供しており、フォッグ㈱、㈱インターナショナルスポーツマーケティング、トレイス㈱及びユナイテッド㈱が運営するスマートフォン向けゲームアプリ『CocoPPa Play(ココッパプレイ)』により構成されています。

当第1四半期連結累計期間は、前期に実施した事業ポートフォリオの整理に伴い、非継続事業の営業赤字が縮小したため、売上高は570,568千円(前年同期比59.4%減)と減収となったものの、セグメント利益は21,256千円(前年同期はセグメント損失708,379千円)と増加いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ6,518,011千円増加し、40,110,258千円となりました。これは主に、投資先株式の売却により未収入金が5,497,035千円増加したこと及び投資先株式の時価評価の影響により営業投資有価証券が1,465,321千円増加したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比べ1,838,501千円増加し、8,898,636千円となりました。これは主に、未払法人税等が1,202,523千円増加したこと及び前述の投資先株式の時価評価の影響により繰延税金負債が845,787千円増加したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比べ4,679,509千円増加し、31,211,622千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が3,661,953千円増加したこと及び投資先株式の時価評価によりその他有価証券評価差額金が1,047,132千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

引き続き新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響が拡大しており、当社グループの事業環境につきましても成長期待事業であるインバーストメント事業においては、投資先の収益悪化や上場計画の見直し、収益期待事業のアドテクノロジー事業及びコンテンツ事業においては、多くの業種での広告出稿の縮小や外出自粛によるイベント中止等が懸念されます。

以上により、2021年3月期通期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による当社業績への影響を現時点で適正かつ合理的に予測することが困難であるため、非開示とさせていただきます。

なお、業績見通しを合理的に予測することが可能となった段階で、速やかに業績予想を開示する予定であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,381,660	8,372,166
売掛金	1,693,870	1,326,968
営業投資有価証券	20,992,218	22,457,540
たな卸資産	38,316	63,940
未収入金	16,964	5,514,000
デリバティブ債権	42,251	-
その他	843,188	804,431
貸倒引当金	△8,069	△2,530
流動資産合計	32,000,401	38,536,518
固定資産		
有形固定資産	431,514	417,430
無形固定資産		
のれん	114,881	86,161
その他	361,384	373,793
無形固定資産合計	476,266	459,954
投資その他の資産	684,064	696,354
固定資産合計	1,591,845	1,573,739
資産合計	33,592,246	40,110,258
負債の部		
流動負債		
買掛金	855,717	859,186
短期借入金	100,000	100,000
1年内償還予定の社債	50,000	-
1年内返済予定の長期借入金	71,040	71,040
未払法人税等	150,418	1,352,942
ポイント引当金	5,063	3,923
その他	892,096	922,717
流動負債合計	2,124,336	3,309,809
固定負債		
社債	175,000	-
長期借入金	178,340	160,580
繰延税金負債	4,582,458	5,428,246
固定負債合計	4,935,798	5,588,826
負債合計	7,060,134	8,898,636

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,923,019	2,923,019
資本剰余金	2,332,513	2,332,513
利益剰余金	11,259,492	14,921,446
自己株式	△1,884,315	△1,884,315
株主資本合計	14,630,709	18,292,663
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,662,068	12,709,201
繰延ヘッジ損益	29,314	-
為替換算調整勘定	△8,368	△8,386
その他の包括利益累計額合計	11,683,014	12,700,814
新株予約権	218,388	218,144
純資産合計	26,532,112	31,211,622
負債純資産合計	33,592,246	40,110,258

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	6,083,319	7,994,923
売上原価	3,062,491	1,866,778
売上総利益	3,020,827	6,128,144
販売費及び一般管理費	1,326,568	827,239
営業利益	1,694,259	5,300,905
営業外収益		
持分法による投資利益	901	-
雑収入	3,943	6,251
営業外収益合計	4,845	6,251
営業外費用		
支払利息	1,305	1,036
持分法による投資損失	16,764	1,525
為替差損	9,002	949
その他	9,086	510
営業外費用合計	36,158	4,021
経常利益	1,662,945	5,303,135
特別利益		
新株予約権戻入益	-	8,673
特別利益合計	-	8,673
特別損失		
固定資産除却損	150	3,211
減損損失	99,166	-
事務所移転費用	7,067	-
支払負担金	48,284	-
その他	5,096	-
特別損失合計	159,765	3,211
税金等調整前四半期純利益	1,503,180	5,308,597
法人税、住民税及び事業税	316,467	1,268,322
法人税等調整額	429,972	333,622
法人税等合計	746,439	1,601,945
四半期純利益	756,740	3,706,651
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△7,542	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	764,283	3,706,651

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	756,740	3,706,651
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,416,011	1,025,030
繰延ヘッジ損益	-	△29,314
為替換算調整勘定	△4,592	△18
持分法適用会社に対する持分相当額	-	22,101
その他の包括利益合計	△5,420,604	1,017,799
四半期包括利益	△4,663,864	4,724,451
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△4,656,321	4,724,451
非支配株主に係る四半期包括利益	△7,542	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	DXプラットフォーム事業	インベストメント事業	アドテクノロジー事業	コンテンツ事業			
売上高							
外部顧客への売上高	351,190	2,637,730	1,688,441	1,405,956	6,083,319	—	6,083,319
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	16,260	1,087	17,347	△17,347	—
計	351,190	2,637,730	1,704,701	1,407,044	6,100,666	△17,347	6,083,319
セグメント利益又は損失(△)	38,853	2,491,865	138,639	△708,379	1,960,979	△266,719	1,694,259

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△266,719千円は、全額各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その主なものは、本社の管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「コンテンツ事業」セグメントにおいて、一部サービスの収益性低下により当初想定していた収益が見込めなくなったため、減損損失として特別損失を計上いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、前第1四半期連結累計期間においては99,166千円であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	DXプラットフォーム事業	インベストメント事業	アドテクノロジー事業	コンテンツ事業			
売上高							
外部顧客への売上高	524,617	5,456,279	1,443,674	570,568	7,995,139	△216	7,994,923
セグメント間の内部売上高又は振替高	600	—	1,079	—	1,679	△1,679	—
計	525,217	5,456,279	1,444,754	570,568	7,996,819	△1,895	7,994,923
セグメント利益又は損失(△)	△17,124	5,384,807	206,533	21,256	5,595,473	△294,567	5,300,905

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△294,567千円は、全額各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その主なものは、本社の管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント区分の変更)

当第1四半期連結会計期間より、事業ポートフォリオの整理および注力領域の絞り込みに伴い、報告セグメントを従来の「アドテクノロジー事業」、「ゲーム事業」、「コンテンツ事業」、「インベストメント事業」から、「DXプラットフォーム事業」、「インベストメント事業」、「アドテクノロジー事業」、「コンテンツ事業」へ変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。